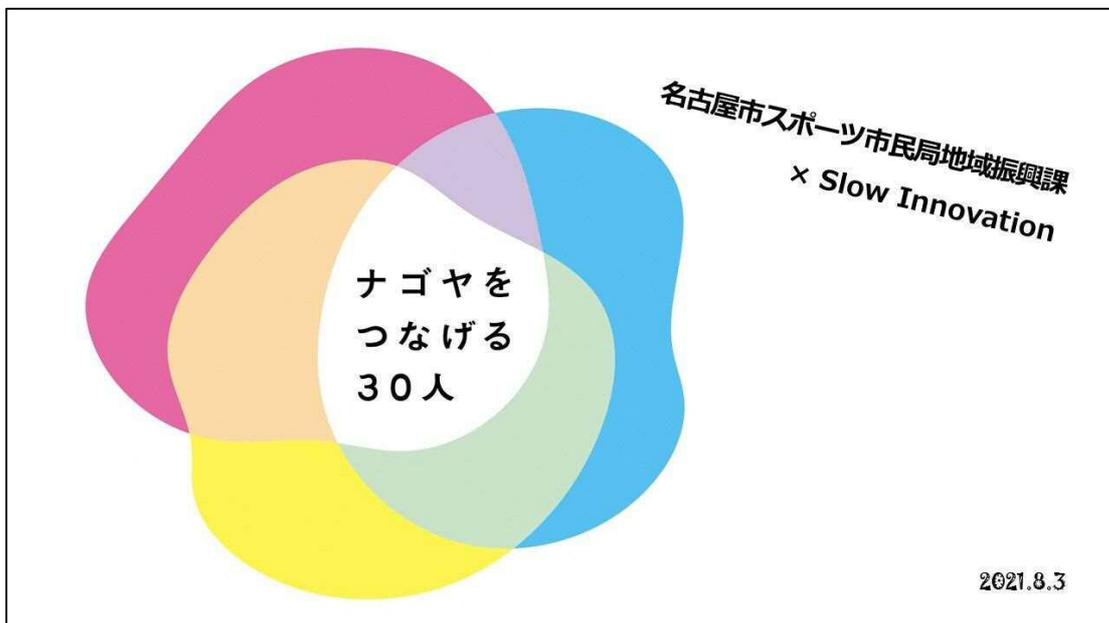


ナゴヤをつなげる 30人 第3期 Day1 レポート

2021年8月3日、名古屋市スポーツ市民局地域振興課主催の「ナゴヤをつなげる 30人」第3期が始まりました。

「ナゴヤをつなげる 30人」は、名古屋に関係する企業、NPO、大学、行政など、多様なセクターから集った有志が、組織やセクターの枠を越え、まるで学校の同級生や組織の同期生のようにフラットにつながりながら、名古屋をより良いまちにしていく取り組みです。集まったメンバーがつながりを深めながら、課題解決のための活動を約半年間かけて立案・実行していきます。

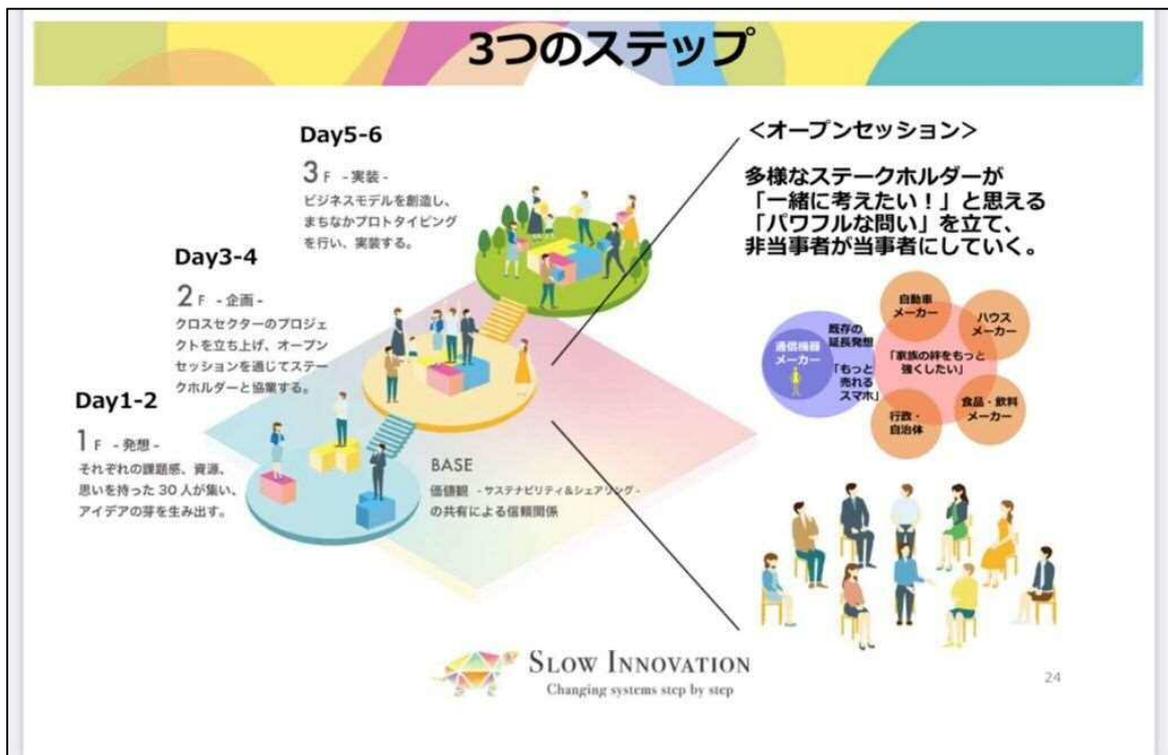


3年目となる今年は、より地域課題に密着するため、中村区と中川区にフォーカスを当てることにしました。地域との関わりが深いメンバーも含めた31人が集結。Day1であるこの日は、急遽、オンラインでの開催となりましたが、画面上からはこれから始まる取り組みに対する期待感と熱量が感じられました。

はじめに、主催の名古屋市スポーツ市民局地域振興課からオープニングトーク。

第1期と第2期から生まれた成果や、「地域コミュニティの課題を通じて、名古屋に貢献できる仲間をつくりたい」「信頼できる多様なメンバーとともに、まちの未来を変えていきたい」という想いを伝えました。

続いて、本プロジェクトのファシリテーターである Slow Innovation 株式会社の加生氏から、このプログラムの趣旨や進め方についての説明がされました。「コロナ禍では、誰もが困りごとの当事者となっている。誰かの困りごとと誰かの困りごとをかけあわせるとイノベーションが生まれるという発想で、つながりあっていきたい」とのコメントがありました。この「つなげる 30 人」は、渋谷や京都をはじめ全国各地で展開されています。全国の仲間とつながり、イノベーションの可能性をさらに広げていくこともできそうです。



続いてメンバー全員の自己紹介。NPO・大学・市民、企業、行政の順に、普段の仕事や取り組み、プログラムへの参加動機などを話していきました。

年齢も職業も考えていることも皆さん様々。多様なメンバーが集まったからこそ、一人一人のお話がとても興味深く、時間が足りないほどでした。すでに「こんなことができれば」「自分はこんなことができます」といった意見も飛び出していました。

ここからは対話の時間。「フィッシュボウル」の手法を用いて、少人数ずつの対話を深めていきます。

対面で実施する場合は、内側と外側の2重の円をつくり、内側の円でテーマについて対話し、外側の円の人は見守ります。内側の円には常に空席が1つあり、外側の円から誰でも自由に入って話すことができるというものです。でも今回は、オンライン。話す方のみ画面オン・ミュート解除にし、「この人の話が聞いてみたい」、「次はこの人に登壇してほしい」など、指名制で話者が入れ替わっていきました。

テーマは、ラウンド毎に設定しました。ラウンド1は「みなさんの自己紹介を聞いて感じたこと、印象に残ったこと、聞いてみたいこと」。「空き家リノベが面白そう」、「ドローンが気になる」、「商店街に行ったことがないから話を聞いてみたい」といった発言が。空き家と商店街に

関わるメンバーが加わり、さらに話は展開していきます。

ラウンド2は「コロナ禍でチャレンジしたこと、成功談・失敗談とそこからの学びや課題」について、リモートワークへの切替の苦労やコミュニケーションの工夫、在宅ダイエットなどが話題に上がりました。コンビニや外国人向け日本語教室のチャレンジも紹介されました。

ラウンド3は「現時点でナゴヤ30で扱ったら面白そうなテーマ」について話しました。多文化共生や食について取り組みたい、with コロナの世界で何かできないか、といった意見が出ました。

チャット欄でも活発なやり取りや情報提供があり、とても盛り上がりました。



フィッシュボウル終了後は、カフェにいる気分で多様な知識や思いを持ち寄ることができる「ワールドカフェ」を実施しました。

zoomのブレイクアウトルームにランダムで6つのグループに分かれて2ラウンド、3ラウンド目は最初のグループに戻って対話をしました。

最後に、グループごとに出てきた話題や感想などを発表しました。

「誰もが関われる場所をつくることで、日本人や外国人もつながれるのでは」、「もともと住んでいる人と新しい人をつなげられるといい」、「孤立化している人がいるのでご近所のつながりをつなぎなおす必要があるのでは」など、多文化共生や地域とのつながりなどが話題にあがったグループが多かったようです。また、「参加者の知識量に差があるので、中村区・中川区について知る機会があるといい」といった意見もありました。



会の終わりには、中村区長と中川区長からご挨拶がありました。各区の特徴や抱えている課題も交えながら、「すでに仲間感が感じられる。良いアイデアがもらえればありがたい。名古屋のまちや地域に貢献するアイデアの提案を期待しています」、「ダイバーシティとインクルージョン。多様性を認め合い、みんなでつながりながら社会をつくっていく時代。実践する取り組みやヒントを期待している」と、激励のコメントをいただきました。



今回はオンライン開催となりましたが、自己紹介やワークショップを通して、半年間活動とともにする仲間を知る時間になりました。まだまだ聞き足りないことや話し足りないこと、今後プロジェクトを進めるにあたって気になるメンバーやその取り組みがあると思います。今後、つながりを深めていく中で、この 31 人からどんなプロジェクトが生まれるのか、今からとてもワクワクします。

次回 day2 では、ナゴヤ 30 で取り組みたいプロジェクトを持ち寄り、チーム作りが始まります。ナゴヤをより良いまちに変えていく企画が動き出します！

